

全国高校野球 青森大会

第9日

きょう決勝 聖愛×光星

第107回全国高校野球選手権青森大会は第9日の23日、弘前市のはるか夢球場で準決勝2試合を行い、弘前学院聖愛が2年連続、八戸学院光星が2年ぶりの決勝進出を決めた。弘学聖愛はエース井川が完投し3-1で青森山田を破り、八学光星は初回から打者一巡の猛攻で青森北を11-1の五回コールドで下した。弘学聖愛は4年ぶり、八学光星は2年ぶりの夏の甲子園出場を懸け、24日午前10時から同球場で決勝を戦う。両校による決勝は6年ぶり。

(本紙取材班)

きょうの試合

(左のチームが一塁側)

◇弘前市はるか夢

▷決勝

弘学聖愛—八学光星 (10・0)

光星 5回コールド

▽準決勝(はるか夢)

青森北 7001200
八学光星 20120x111
(五回コールド)

(青) 工藤佑 佐藤、木村、神、高坂

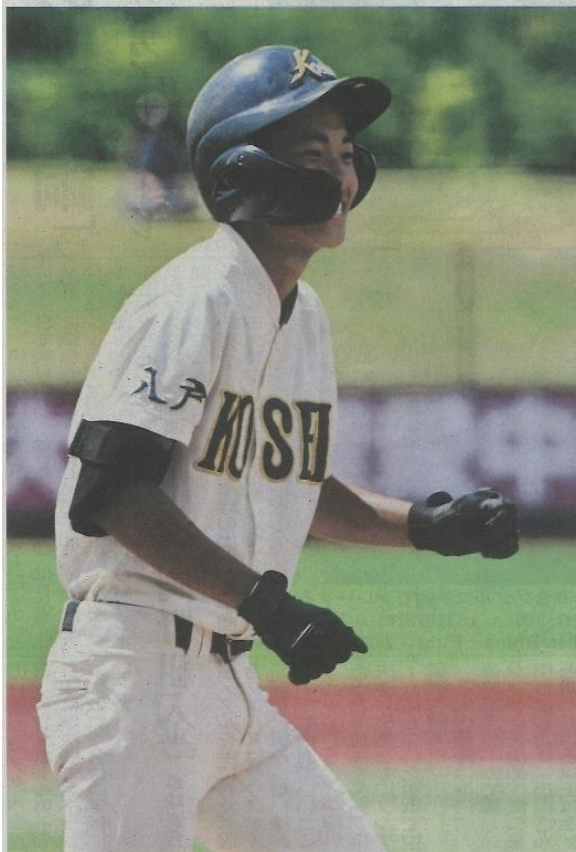
(白) 佐藤、柴田、米澤

▽二塁打 小野(青) 山上(白)

▽暴投 工藤佑2、木村2(青) ▽捕逸 高坂(青)

【評】八学光星が序盤から青森北を突き放し、五回コールドで決勝した。初回、久保の右前適時打で先制。その後はミスに乘じて押田小、光田が適時打を放つなど打者一巡でこの一回一挙7点を挙げた。二回に2点を追加し迎えた四回には、押田小の右前適時打などで2点を奪い、試合を決めた。投げてはエース佐藤、柴田の継投で相手打線を封じた。

青森北は4失策、4暴投と守備が乱れた。三回に工藤巨の内野ゴロの間に1点をかえすのがやっとだった。



八学光星の1年生二塁手・押田小虎が気を吐いた。

「初回から理想通りの打撃」

初回2死一、二塁の局面で右前へ適時打を放つと、四回にも1死満塁の好機で右前適時打をマークし、2安打2打点の活躍。「初回から理想通りの打撃ができ、いい形で試合に入ることができた」とすがすがしい表情で語った。

「トスバッティングのイメージで打て」という仲井監督からのアドバイスが守り代わり。この日もミートを意識して左打席に立つと、初回、四回ともに「狙っていた」という内角の直球をほしき返した。試合前にはあまりの緊張で集中できず、仲井監督から「喝され

【青森北—八学光星】1回裏、八学光星2死一、二塁、押田小の右前安打が失策を誘い5-0

1年・押田小 2安打2打点

チームは初戦の2回戦から4試合連続でコールド勝ちを収めるなど上り調子。2年ぶり、そして自身初となる甲子園出場に向け「大事な決勝戦はつなぐバッティングを意識し、守備でもピンチを救いたい」と意気込みを語った。(棟方好華)

たという「気合を入れてプレーできた」と笑顔を見せた。

東京都出身でU-12(12歳以下)日本代表の経験を持つ、中学時代は他の高校からもスカウトがかかったというが、遊撃手の兄・心(3年)が練習に励む姿を見て「ここで野球がしたい」と八学光星の門をたたいた。試合では兄弟で攻守ともに躍動。この日も初回に息の合った二遊間で併殺を奪った。



4回裏、八学光星1死満塁、押田小が右前適時打を放ち10-1